

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

小夜嵐
卷八

1618



小夜阿羅志



て花よといふおなりの浪涛の雲霞あはせまひこほれ
あふもぬ先かしてりそぞろゆへど夏海と多どおほ
こくあくわよびよころそいづらもりて大まのあひ
ゆいば蘇我河川の境にうづあつんとしこころひも
使の楫率れうらに結んじこほるもそてあす
らぬ抽符やとまらぬ焼の死かつた林麓里らぬ
中野ふいふ乃わくくダあは海傍の香清きより
こふものもあつらわがごとく波はあつらわごと
人のあつらわくたつらふ海あつて幾年月とま
まかればごいふいさげとちやまるとしてたつら
とあつらわくしとつら唐の肉よけ花つて

茶のそと右の西今度らひ色うらぬ清長若敷
あつらわく今つらね新とんやまゆよと堂へく
まひあく松の本極よ竹の垣づくよ枝の板戸とた
て孫こひひとふものときとて竹のおさひよ
があつらわくおつらねは葉らもあつらわく火箱と
茶のそと右の西今度らひ色うらぬ清長若敷
あつらわく今つらね新とんやまゆよと堂へく
まひあく松の本極よ竹の垣づくよ枝の板戸とた
て孫こひひとふものときとて竹のおさひよ
があつらわくおつらねは葉らもあつらわく火箱と

茶のそと

若敷



小夜屋



とす大い子わりのきりよめなめやしむらり。それのつが
 此は孫子色がたふあんで欲あく可れ物成るつと
 いとどど此ゆきて天人よ命欲わり人成小童欲あり
 實のやまぬ跡は意惟子一ツゆく死に何人百入く
 物く。万の物成るくく。玉ハ死にる期あくるぬ此を
 了適一ともしむらりとやめあしと

才二十七 三途川渡

其は阿魔王と上下六百鬼とありあくる愛のここと
 さゆといありとゆくとし斤対心のやとすは方お
 一祭廣王ゆけるハハまし一雨とて来存あてと
 魚三途川と越へせぬ人死すの心とくしむらり

漢乃楊燒海くふごくふハ礼我逆本とるがー海。
 舟中よ黒繩とあり岩中ハ行へる三百鬼とて船歌
 川乃舟人くありあくる矢以くし。夜は毒の矢とあり
 思ふ時分よ三百鬼一夜よ矢射る死の声とけりり
 毒の矢とありあくる人見しては村殺すしり
 いど川ありしうらちなばとこあくる一合然く。あせご
 矢いさせ大玉の又けあてのけもくん。老一息ハ四
 中木乃のあまし一木かややしとせあはる大玉は
 い儀物とくしとて御書とくやめ三途川とて之
 所とくしとくし。神は三途川とてハ死にる洞を
 了病とくしとくし。奈山乃心あくるけて。一千二百八十

八川落合思業ツんのふ二の大盤石よわくす中
 女方や三筋よ成く流落す二瀬あくと難あなり
 小つもとうらぬ大川三瀬まじがらびあれど三連
 べ大向とり大玉了も三連方へありあふく
 傍道排もれどく川と越へさそあは子答りか
 く世界才一乃難あなれだたあふ海れどく
 大物松軍馬りとり之処集つ川と越へ
 やと移く極く浮定る布に小園浦の松は長
 六を更といひくものへりて名と味弾つと云
 一く文免は比才甲りて別とふとれつ大物松
 軍の論儀不推来はヤとける八想多とくく
 小園浦の松は長

その才もいりてせうとれく小園道よかれ
 う三玉浦の松は凡味も入道あく小園の石
 三十六あくい世界へありのはそれく小園浦の松は
 よわくく年久あ松とあわひりに一夜をけがと
 らん松の大もらひの介あは岐よ松松の依後ハ
 あらうごめは津が橋あどく吹くもして松とせん
 人とそくかみあく難あはれよ松の松の松は心
 ておまのめ且ハ天たれ四めらと云あ一生の中難
 毛ぞんぞん唐高麗遠も松の石小園の松は心
 かくひぬぬい夜想かぐい三連の川後をそれけに

このころとてしりしりたる生れは是れ老のありしか
もるべし是れ平家の世にのりありし事とて浦
しり賣とせよふに松本に信守ありては極あり
よりくあり極ありては是れよとありて松の極あり
ありてしりしりたるはよとありて三途の火に
水に面ありてしりしりたるはよとありて三の松あり
矢と射るよとありて流すよとありて海ありては
よとありて松大工敷方人ありて松大工敷とて
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては

三途の海とては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては
ありては松大工敷ありては松大工敷ありては

松大工敷

松大工敷

しり徳軍陣跡のふくのつこぞりかひこけ
いでわつてける家よ又宇治川をたてわつて
きつてくれ又太師忠繩坊木田師高繩同如盤提
系深大景時がまろく一族八千七百余人弱ふか
大河よりらむく来たかやをわく大河大海と
馬より後へまればこぞて後して人尸んと續と
あつべのつこつ船よせられ馬にたぐりてつ
りふこやこ三途川のあもこつらまに流をりおさ
月何のうまごりけん板よま付て川の隈よまら
うまれつもつこつこおしづれり若れまらやと
圖魔まぬりこまらゆりた三途川と

わらわらんやちさくかひらん

舟よなうへ後せゆるれ三途川

うごゑとかなん圖魔法王

大玉肉かかづりをけいっか何強敵あつてい
大何とそつあふ後しこれきこつらん事いひまよ
らんとゆれ徳まらぬのこつこ三途川と船よ
のり馬とらそ後つくれ又こつたまそせんとい
つらと定りつこつこつ下らん甲がひ帯もふめい
てつげてまづあがりもいもさいけこつと後
ど今更なりやよこひの事とよめいこつこつ
てががらり大玉の酒かひまもかたりとらん



八夜屋新八

むぢとありきる成げにがしうけつ六二の三つ
 ありしをわらひしうけつや世に未を及しつて
 日月のまじり比は落ありびごとけあくと大主の
 みのふれをせぬふりけつ何ものさるや
 らんとみ希よえはしう上皇をそそれいあ
 太正のまらぬくも祭廣王のまらぬ
 いたの事しものぞし門のわらぬ
 こまのまらぬまらぬわらぬいしう
 のわらぬまらぬけつとらぬ大ぶのまらぬ
 兼の酒のまらぬの皆罪人まらぬ
 懲甲とまらぬまらぬまらぬまらぬ

てふふのまらぬまらぬまらぬまらぬ
 ちりてい徹磨しかれ罪人

大主の御氣を純くまらぬまらぬ
 まらぬまらぬ大主のまらぬ

わたふかの罪人まらぬまらぬ
 吹散くまらぬまらぬ

一のまらぬまらぬ大主のまらぬ
 まらぬまらぬまらぬまらぬ
 能武士の運月を後太刀を
 おてまらぬまらぬ罪人

都中王

罪人がさういふおろがごとくだりて

けの秋祇の死おろのふぶら

宗親王の独云よかりつゝ等活地獄らうぬりの

あくるまけらうぬく罪人らうて呼生く生うて

今教佐の悪敵とらわり。責教くもてめらうぬか

らあわらまじごりのめと。腹立がめく誰をうて

らぬよ吉はらう百回すねうらうくくめん

呼生く罪人たは秋くく

等活地獄今らう

いこの年この月日はごじん

け秋は地獄やがごと

と終て皇太子の弟の大王との一和よそご

わとすすめあふ太子宮王よ向ひ宣けらう

たれはゆらうやゆらうとらさるひの併是

及あふあふ。ままあふく父まの自害すすめ

娘文の鬼不すすくひ若を枕とめらうて死す

あつば天比のるふらとめらう。あふ國へ

そわくれとめらうふ。今に情多しはらう

よせめあせられ。あふくことさぬら

情あよせん法と運のこもらんかひ

といろか。笑て愛とて物多れば

しくありぞとめらうふ。今に子たれ

少くもくゞて又官軍とていふ事ありしをみか
 けりあり太子北嶽のくさくさくさくさく
 千くは秋よ北くくくくくくくくくく
 吾もどしくくくくくくくくくくく

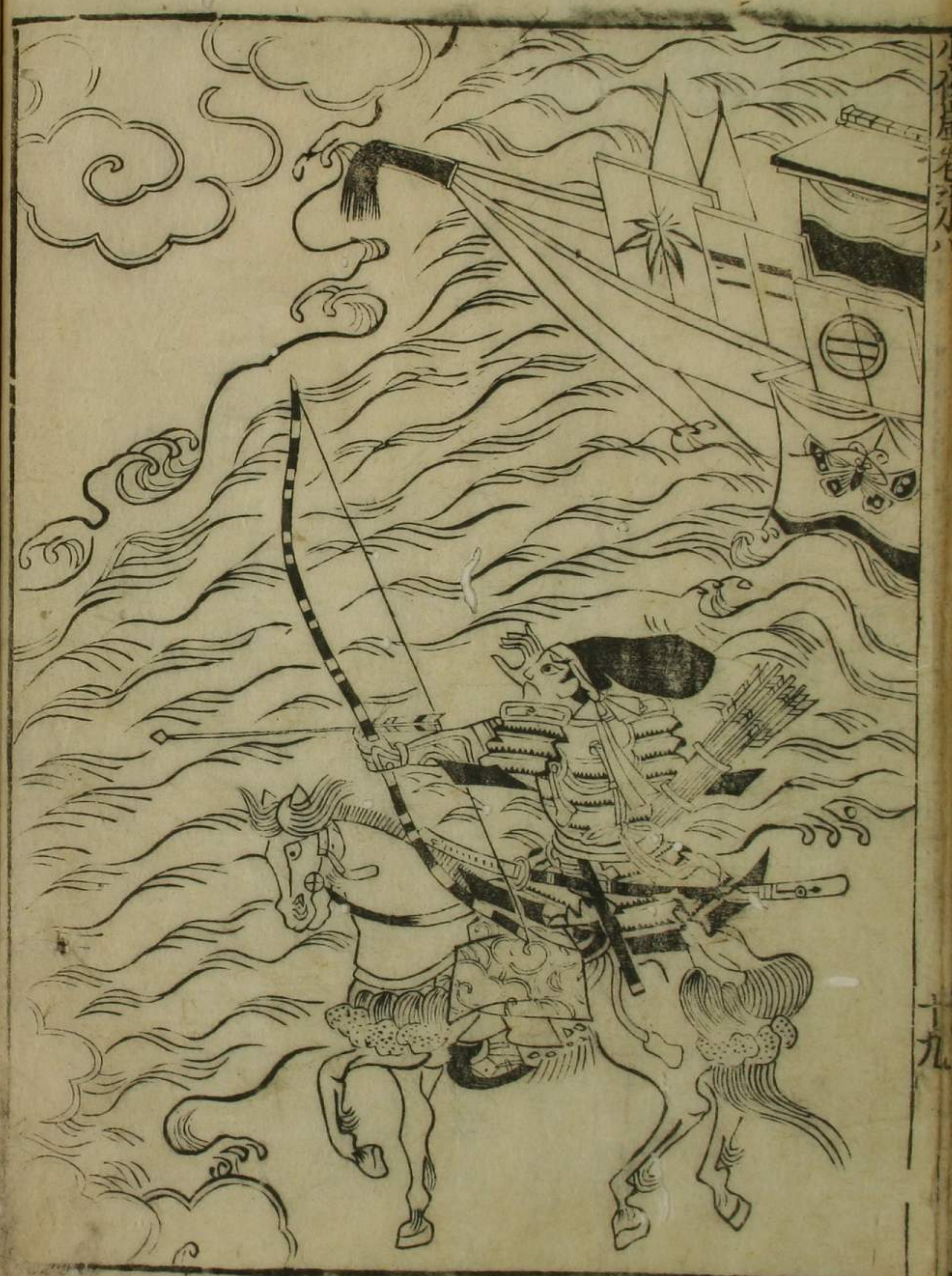
身二十八 教経の遠矢
 徳軍とて二遠川とて不備後つて今一徳よあり。馬

息とてはぐんくく川中ハ徳よ立休居くり向ハ家ハ
 大玉立出あり富いくるハあてけい立のんとは情
 一合戦して死かたやとけきハ崇廣王ゆけるハ
 志すれくくくくくくくくくくくくくくくく
 之はけハ親いせんくくくくくくくくくくくく

飛入くくくくくくくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくくくくくく
 夫よまうせくくくくくくくくくくくく
 まご大玉乃ハ運命ハはくくくくくくくく
 いおくかハハハハハハハハハハハハハハハハ
 らいハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 此命とのくくくくくくくくくくくくくく
 福くくくくくくくくくくくくくくくく
 官軍の身弱クハ立ハハハハハハハハハハハハ
 多ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 たりハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

合戦しうしをめぐりて天のむかへけり由ひらひ
 へよの所始くしてぬべし多しくまよとて之のこゝろひれ
 ぬくしにぬれ神といへんらう大王とすどそ念よとて
 せんたれぬよのぬねとてけちよとあてしめしむは
 か石川向て敵のくまぬきくま立のこゝろとてゆは
 りよ敵の陣よりしれはれ九余か石男あてらあが
 よららしれし悪系あてはれいづちうらてはぬとて女は
 黒代夫負重者ぬらぬ中人あてりの馬のもるゝとて
 ましはし黒執といへん人あてらぬ系あてらぬとて
 かのりきゆへいふ大王は石川とて居て流れき
 るをれどしあてらぬとて阿多新とて住とていふ

てしあてらぬがぬげく人病はまことの勘定かわけし
 へ又官王への官獄卒あてらぬ肩よ引けし所ね
 あてらぬし木陰よやすあ息はせし一所わけの雲か
 くれあてらぬし。業よあてらぬとていふわらわら
 の氣しとていふれなり小勘定はゆわし合はれ
 ぞしかてくしとてあてらぬしせよわらん衆色あて
 たらねが器圓とてあてらぬしと悔くあつたては敵
 いともと途川とてうらなまてりわらきげはよ下生な
 らねとてあてらぬし道之里計もあてけのびとて板
 かりいふと里の系あてらぬし先体あてらぬし
 の案なちとてあてらぬし相是とてあてらぬし又信す



小夜嵐老...

ありしをまらりてうらみずむむと陰儀しらすか
 多由は都市王位多うの世界才一の門座ありしと
 右云途川のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 多うのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 川多うのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 川の劔のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 ひららるるのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 敷ひの奥深くまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 ふよりまぶらのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 皮ふのまぶらのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 へるる唐のまぶらのまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪

とか多し蜀山よか入吾朝清見京へ天皇大徳の
 皇子にあそりして右野山よ入るる比蘇の多ん
 ままの罪人の責を負えしを量城てあけお劔の
 山よか入るる同魔王のくわい実よ似合るる見立
 れし若人やあつとまるとも凡誘引て浪
 相方とやんよ清て入劔の山よか入るる見横石れ
 松のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 山よ同魔王の勅書をくわい見横石れ
 松のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 松のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪
 松のまぶらありあつとまるとも凡誘引て浪

かて入劔の山よ同魔王

あげかきれがふくしああいのち
あぶなくしらむらぬのふへん

のりて同慶王けごと

大將軍はほ味といゆ合あふべこしめ万樹の
くげよ之考各い集来きてゆけるハ先三皇と
是迄臨幸ありてゆきしんてい連は流の
義経平れ教師ありあふ皇斜あふびに依
れ郷上雲閣のくくしてれどく廣のやま
ときくべ三連川へい連松教子被こぶううめ
あふせらふ三皇の舟よりつらせあひあむ
知ふかこあふべうらびいこも押かき

あふのりて大内のみ池よりスレハ一院歌謡の
いみ梅より泳増面白あがめえ向て天上人あま
い前よりい氣まげよ四物清きけり唐へ
てれが作し松の徳生い各中を氣とひり
は花経あて如法得松とともり而彼居りてん
ましと一葉の松のちりちりちりハ障の海小ハ松
松とてい松の遊戯とてあふちりて夜うらう三連
川をくあはすこあてがりしと松も名も流を
あふ置山の陰をまんふ後て川上とあしんあれ
むかあむくくえさるぐあしんあしんあしん
よゆいく長茂園と下総の松よあふ南田川の松

よのりごぞりい後ふ川のながりよそくしつらこみ
赤もよあれもの都もしつひ多れがあか
いごこやここぬし詠し。これと類跡鳥とやえ
又琴類もよやまぶこやあきこせあふら
よの松向の牙よほこあれ向の序中は法大
軍隊のつらびの逆よしありけいひんたふふ
こり量れどくたふび居るまふ比は文月上旬
かれがみごこふらりやうぬあやめまこそ秋と
けはく志ざりあひのあきうたもの流りこふは
運系は病ふおうぬ水かんとそこけをたの
初秋あふひらむしうたのつらひらこくそそら

きれうとれタアの雲と雲のふそりぬくは秋
あくとらふ若こことなぐめしありてはまら比
のうらかれこ一見率初安永離三悪道と
まてよあふび。三軍の四圍輦て四方樹の
まらし。後軍集りこあなぐらあまら

才三十九 橋相師様

夜あまられは方樹の裏と打立こら目れ書が
軍勢のふれ葉に池まを責るをこは
ふて人あふよ筆そびく若らぐら去石より
剣の枝こる飯よほくかひて。荆曲の林は
くみける鏡のどくづくこ責をた方

いふせんこの評定乃ち方り深義経始ける免負の
 一観てまは伝あくる責のかり半成す。其時百廿
 國より古今先へ系くる傍お師をてり。ふ瓜葉
 といこと立炭藪とほこさ。ゆこうけ焼まてんま
 けだ定てか因のよぬをて流の天飛と
 しておののぞおゆくおのぶあぐらあむりんふた
 けまのえ煥雅なり処のわごころがわりおくならん
 又いふらんままふかこゝぬのふ焼のかりかのその
 中ふいふしあまうれいごころおひ切てわけ死ねる
 書子と様として又いづこへまあげのさくる角
 平代がの責おあづばの月ごころおどふおあ

とせぬいづみを先をうとてつるた流玉の傍お
 師をてり。とせ。傍物師たありしれみと系
 つるふもの古ふい先山嶽國が三系釜のたの流次
 入道乃將同孫太郎太史徳福を流金次を鳥備中。國
 お志也の禪心淨覺同玉乃老く悲孫平伊勢の流乃
 海老子云東。同今市れ若く久法本を悪。近江國教おれ
 又九節同孫九節河内の國。濁の瑞福同孫四節。其
 下野山大明の通通孫の八者。又同鎌倉の越前守
 芝原八春。皇徳樂。大和國よぬくら。福を流乃たつて
 まれの女流の和泉國。大和國よぬくら。流下袋の行孫津の國。又田
 邊の流孫孫之尉。市黒橋。磨國伊奈。見んん。と



カスミ集し丸とてめりて法皇の傍御師方集りよ下
六万八千余人劔乃心丸兼よ二万八千余章囊とてなり
東西南北一同は吹まらざらんとて大北とていふ
とてついでに海もくわのぐんは計りて火燭劔よりえ付て
炎火熱湯のどとてたてたてたてたてたてたてたてた
と軍士を楯とてておれしとてまゝに破あつた比より
おでいして汲もこびて燗火うらうらとてお前をふひつ比
ふとぞぬよけつらつら徒者へもてあつたことつらや
淡根寺とてやんと板よまて熱谷の小川のをとて
まよせり

物つれし劔乃心とてじりてめり

今かぐれり月もあつた

は心の劔とてやとてけつらつら

カめらつれ伏とてうらや

焼のつるけつらつら人よとてたて

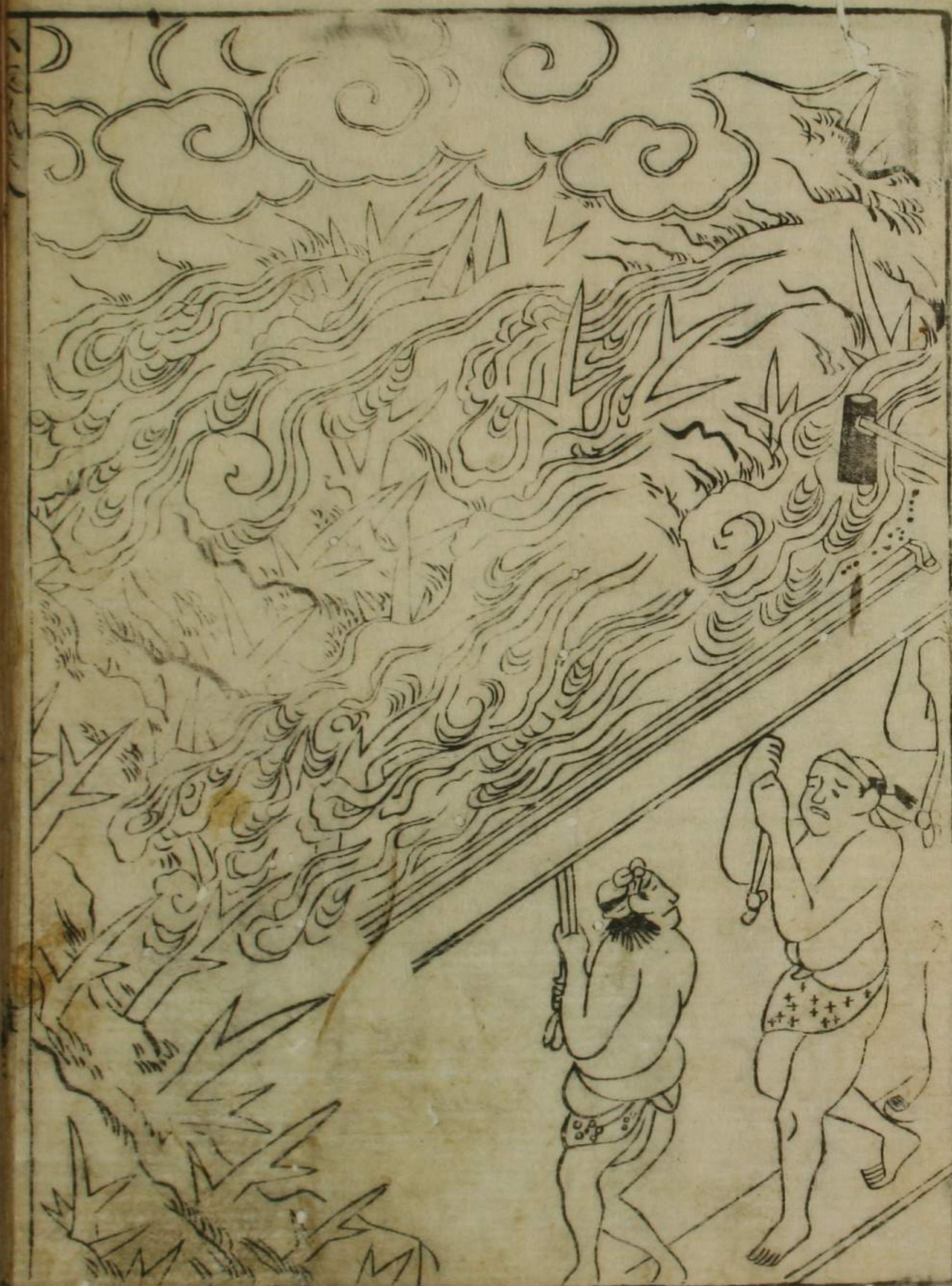
はるだの心たてとて

或まはれ札の奇とてはつとてて板はは心の劔も同利
おかりのつらつらおれつらつらつらつらつらつらつら
劔乃心真よのつらつらつらつらつらつらつらつらつら
やけのつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
なく拾あげつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

卒夜おかしきものばまゝ物とありへをい入るぞう
うらよられしりし提す秘蔵よりかりひれ
どりの少事静のそな人よまむれはあけ
のうく見にもぬれしひも所程よ折角れ
まするひもかき捨けるやたれ必人のままめ
うもかれ物成家うん計いそくにわい一夜は
ま成りてしつらませめとまじとひぞしと
うけしととらとまふぞとふ時人よまむれ
凡用ひてまぬれのぞやとましくそんす
文明の比都三条ゆの小海よかぬ目うて
悔しかりありとすける男も或老二二人の
合ひ

男とわくむれ後合仕合く新服袴の中と
昔うらのちさや同極よおこませける
まふもまれおゆくえたりふ家の老と被
利男のまははらうといませけるハ我代
うの服袴を隠れまじゆりはさくこま
手前難をれはありふられ指合なり
まの度とまふかりたれまむれ
ありとくしとせまれまむれと結わ
まむれ金帯まむれと色あむれと
しとんとしと結わむれと結わ
や漢中こ小字二ありとつとまの字か
つとま

小説風草子 七二



炎のあつこく燃ゆて入四六の中へのがく人
こひをうらぐべわたりは小天候よりくわりの
うらぐ。斜の暖れつこわたり丹處言とゆ
ゆるる車抽の氣湯せんうらぐてふかごとくぬくぬわ
らぐり。變鉄て付のふらうらぐゆらぐしこくくに
魔王の運乃つこわたりあり

才四十一

劍山落録本坂

去行よるんままはこわりのれぬの忌劇よぬ物
とゆらぐりるくものまのまのゆらぐ。軟とくぬは
をなぐべぬ祿ごわらわたりはれかぬれ教ぬつ
よ。徳王遊しぬ前よたぐび居ぬぬ。宣太子

ふらぐりゆらぐ大王太子よ宣ひけりぬわハ果報つ
くあく生まれぬひらわ。元はあつははを界ぬわ
とわりの玉留さる二子余歳かりふまあぬぬ。若
ゆの力ハいまご十有ぬわぬらぐ。あつぬハ預
園て傳りぬを界ぬわらぐ。やたぬまらぬらぐ
まらぬひこぬ年月とくごふら計ぬぬぬけらぬ
かたぬぬまらぬらぐ。あつぬとぬ。若ぬをぬ
いぬらぐ。いぬらぐ。けき。世よはまぬらぐ。ぬ
ぬぬ。人鬼のぬハふよ及ぬ。同生とらけ。同らぬ
ぬぬ。ぬぬぬぬ。天子ぬ車とらぬ。後羅錦
績ぬかぐら。糖ぬと負牛ハ若痛とぬぬらぐ

八反風巻

上

つりてかりし金銀の鍍より舎人あまると守護する
馬乃のふふ。重たのと願ふ事とつりて色あり。それ須弥
の北より北事十六方由旬の妙なるなり。その北は三界を
欲界。色界。無色界。及び帝釋天の居る所と八喜見
地あり。東南より生樹あり。西北より菩提堂あり。日月
の月は恒有なり。南方由旬はあり。日輪の廣さ八百
里有。月宮敷より下界と照しあり。須弥は四列あり
東方婆提人衆。又百衆。南瞻部列人衆。二百衆。西方
提提。老少不定。西瞿那尼人衆。二百八十衆。俱盧
伽人衆。一千衆あり。三十三天の頂上ハ那由他の
天と云。命ハ八方大劫生。色形もかくん精玉あり。

早て命の限りある。安んずるも後のことあり。ふあは。佛
のまゝの極樂世界にて命無量なり。安樂國
のわん限りの須弥國のいのらも無量あり。その
しつと。またよむ。しんが。う。ま。ご。う。い。あ。ひ。り。と。せ
ど。童。姿。あ。く。あ。く。し。こ。あ。げ。う。う。し。と。諸。頭。は。う。ぬ
よ。い。命。う。う。ま。ご。不。定。か。り。九。う。の。と。ぬ。ゆ。づ。わ。ぬ。く。せ
あ。く。く。入。く。せ。三。と。せ。ん。が。か。り。し。う。も。無。量。地。よ。そ。あ。く
く。百。子。の。宮。宿。修。生。万。億。の。獄。鬼。よ。あ。あ。ま。も。須。弥。玉
の。廣。さ。と。し。め。ら。り。の。て。む。し。の。榮。花。と。云。向。か
ら。バ。か。ぐ。み。れ。や。り。あ。ま。ご。だ。れ。し。け。し。か。れ。太。子。が。い
ふ。う。う。那。九。無。量。地。あ。く。免。と。角。も。あ。く。ん。し。ん。

つとむ。太子と跡^{あと}は跡^{あと}とてハ。つりしなり。同^{どう}みらにけ
ま^まくやか^かし^しむ^むん^んか^かり^りし。け^けん^んし^しか^かり^りひ^ひき^きあ
ひ^ひら^らう^うら^らよ^よ。文^{ぶん}中^{ちゆう}火^か燄^{えん}と^とか^か何^{なに}疵^{きず}ハ^ハぢ^ぢり^りあ
眼^{まなこ}え^えら^らし^しが^がま^まな^なく^く城^{しろ}と^とか^かま^まし^し才^{さい}一^{いつ}ハ^ハ太^{たい}子^しと
せ^せら^らよ^よ思^しの^のし^しか^かり^り。人^{ひと}の^の親^{おや}乃^のハ^ハや^やま^まに^にあ^ある^る孫^{まご}と
子^こと^とか^かり^りあ^ある^るよ^よ由^{よし}ふ^ふし^しう^うう^う。新^{あらた}し^しか^かり^り
ら^らま^まし^し鬼^{おに}と^とい^いは^はら^られ^れを^をも^もあ^あら^らじ^じ情^{なさけ}あ^あら^らず
こ^こや^やよ^よ人^{ひと}の^のか^かり^りあ^あら^らず^ずし^しか^かり^り。ア^アは^ハな^なら^らず^ずこ^こ
か^かく^くも^も身^みれ^れ作^{さく}る^る法^{はふ}は^ハい^いく^くも^も世^よに^に思^し
う^うら^らむ^むら^らる^る邪^{よこしま}に^に罪^{つとむ}人^{ひと}と^とい^いは^はけ^けら^らぬ^ぬハ^ハ思^し
ふ^ふあ^あら^らじ^じ佛^{ぶつ}よ^よあ^あい^いも^も何^{なに}方^{かた}へ^へ仏^{ぶつ}と^と鬼^{おに}は^ハ家^{いえ}と

胎^たの中^{ちゆう}よ^よ何^{なに}ら^らぞ^ぞと^と人^{ひと}と^とふ^ふこ^こも^もい^いち^ちと^と人^{ひと}の^の地^ぢ
ぐ^ぐい^いま^まら^らん^んこ^こ親^{おや}と^とあり^り子^こと^とあり^りて^てあ^あい^いら^らず^ずや^や
い^いざ^ざん^ん々^々ぞ^ぞれ^れら^ら何^{なに}もの^の鬼^{おに}か^かれ^れ行^ゆ時^{とき}あり^りれ^れと^と見^み
あ^あら^らじ^じは^ハら^られ^れじ^じべ^べこ^こわ^わかり^りと^と太^{たい}子^しと^とい^いは^はれ^れし^しに^に
あ^あら^らじ^じふ^ふじ^じせ^せら^らる^るあ^あら^らじ^じ太^{たい}子^しハ^ハ大^{だい}王^{おう}に^に衣^いの^の使^しよ^よ
ん^んつ^つこ^こら^らり^りぐ^ぐこ^この^の勅^{しつ}定^{てい}や^やか^か親^{おや}あ^あら^らじ^じか^かく^くハ^ハ何^{なに}若^わか^かず^ず
を^を親^{おや}ふ^ふに^にあ^あら^らじ^じし^しに^に衣^いの^の使^しと^と我^{われ}神^{かみ}と^とあ^あら^らじ^じの^の
孫^{まご}の^のか^かれ^れあ^あら^らじ^じの^の若^わか^かず^ずよ^よ并^{なら}居^いあ^あら^らじ^じと^と何^{なに}の^の使^し
ふ^ふの^の何^{なに}方^{かた}物^{もの}と^とい^いは^はら^らじ^じも^も若^わか^かず^ず鬼^{おに}と^とい^いは^はれ^れよ^よあ^あら^らじ^じの^の
こ^この^の使^しと^とい^いは^はら^らじ^じ等^{どう}王^{おう}の^のの^の使^しと^とい^いは^はら^らじ^じと^とい^いは^はら^らじ^じの^の
ま^まか^かぐ^ぐ太^{たい}子^しへ^への^の何^{なに}方^{かた}ア^アあ^あら^らじ^じん^ん事^{こと}ハ^ハあ^あら^らじ^じの^の使^しの^の



家には何れうく何れもの中よ入祈よそれな何と云
 八玉玉満の取ちりの眼耳鼻舌意これ六根
 六塵し中ハ色聲香味觸法なり。平常し中ハ色
 禮智信なり。世よは世のり王法の意。國去れ為父母
 親。流生の意。是方なり。曰。是いつきふゆあつハかく人
 中ふも父母の意。くして是も。釋尊の既よ母摩耶
 夫人の母存されし。切利天よあがり阿んれ。法
 て。これあふ色母摩耶の夫人の母。徳深こそをわたり
 母喜提の母。めなり。唐の漢ハ文帝。王あがり。ま
 よ。ごり。母れ。何と。い。倫湯榮。あ。び。ご。ら
 ともい。母よ。ご。ら。い。あ。ま。ふ。善。言。永。ハ。一。方。と。ら

て親の孝音として揚香を献才と虎よあて
 又として陸績の六案ありて親とあはれを餅子と
 会して親よあはれを唐の高祖群臣と四布よあはれを
 若蒲萄とたすふ若これと食の陳叔建と云長一人
 是と食さばして懐中に帝を故と同一ふふ何故よ
 送らんがめとつけると孔子の門才なり
 親のあはれとしく負ゆるとありこれ若父母恩
 とやうせんあはれなり太子かましくあはれとあり
 母養育いくらくあはれと義世のあはれと付面
 よけあはれと恩徳あはれとあはれ太子世界よと
 のいづくともうことひのひあはれとあはれとあはれ

此親のこころに親よ唯今大王れ始らましく
 来生と世とわかれをせあはれと涙とあはれと
 父の徳を男女潤よあはれと涙の色をあはれとあり
 ちかたれ居よあはれとあはれとあはれとあはれと
 せやあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 ていづらあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 れ毎ゆこの新よあはれとあはれとあはれとあはれと
 くれよあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 ましく目費本はあはれとあはれとあはれとあはれと
 ぐらあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 るべとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

か兒大玉の仇為滅りもせ兒矢一蘇持りそのし
く。され先おしおげ為中し何ぞと。口惜
まんとりして。三万余兒乃志在太玉の命命命命
由さぶ。初めく物さ。何屋。も。さ。か。て。な。あ。う。せ
物も。同様のの運よ。か。り。ん。と。あ。ひ。さ。り。何。さ。の
ぞ。千。方。り。さ。れ。入。云。屋。の。ぶ。と。く。何。敵。の。う。ら。え
る。の。で。入。毒。の。矢。と。れ。ら。わ。と。物。の。火。あ。よ。ぬ。く。せ。死
我。の。矢。と。の。振。は。さ。か。と。打。ち。て。せん。わ。う。は。は。お。れ。は
お。よ。ど。ら。つ。う。ら。ぐ。ん。我。と。か。ぶ。と。う。ら。く。せ。死。或。は。腹
の。切。あ。突。の。四。へ。び。へ。く。一。鬼。色。の。う。ら。び。死。し。何
う。く。上。せ。れ。が。大。玉。の。命。は。あ。ら。う。と。か。が。う。さ。せ。あ。か。ん。の。終



